

## 女性リーダー研修会に五鹿屋から17名参加

7月17日(金)、西部体育館での女性リーダー研修会に、17名が参加しました。

高齢期に運動が必要なことをテーマにした、研修会でした。記念講演は、関沢仁悦先生の「元気で楽しく中高年 か・き・く・け・こ」を聞きました。また、川田和美さんの指導で軽体操を行い、体をほぐしました。参加した中居律子さん談「先生の話で元気 か・き・く・け・こ が印象に残りました。か・いろいろな事に感動する。き・筋力をつける。く・食する。け・ケラケラと大声で笑う。こ・人を愛する、花を愛する動物を愛する。の日頃の心がけが大切だと——」

五鹿屋からの参加者は

|      |      |       |          |       |       |
|------|------|-------|----------|-------|-------|
| 堅田弓子 | 中沢康子 | 吉川田鶴子 | 中村和子(豊信) | 中居律子  | 堅田多津子 |
| 堅田和代 | 余西律子 | 余西清美  | 北嶋礼子     | 宮崎千栄子 | 堂前喜美子 |
| 荒木道子 | 坪本史子 | 西岡勝美  | 朝倉はる子    | 永原由美子 |       |

以上の皆さん

## ペタンク大会で汗流す

7月22日(水) 中村グランドで「市老連ペタンク大会」が開かれ、五鹿屋から3チーム(9名)参加しました。当日は、薄雲を透して確認される世紀の日食の中、ときおり空を見上げながらも戦況に集中し善戦しました。吉川一郎・余西十治・天野清春チームは、予選2勝1敗で3 スクミとなり得失点差で惜しくも決勝トーナメント進出はなりませんでした。宮塚豊男・上銘捨三郎・谷井孝則チームは尻上りに調子を上げ4点大量得点などで1勝を上げましたが予選敗退しました。中村博信・柏樹直夫・荒木清治チームは予選3勝で決勝トーナメントに進出しましたが、強豪油田チームに敗退しました。また、大会本部役員として五鹿屋から花島義雄さん 前田外雄さんと堅田七郎さんに出ただき、お世話していただきました。

## 7月25日 五鹿屋高砂会 理事会

7月25日(土) 午後公民館で五鹿屋高砂会理事会を開きました。主な相談事項は、(1)高砂会グラウンドゴルフ大会の準備 (2)高齢者学級 安居寺講座(8/20)の件等を中心に、協議しました。

# 「報道現場の第一線にいて」

## —— 取材地区を好きになり元気になりたい ——

7月16日(木)午後 第3回高齢者学級で、北日本新聞社砺波支社報道部長 朝日裕之氏「報道現場の第一線にいて」のお話を聞きました。暑い日の中88名が受講し、新聞社の第一線に立っている方の理念と体験話を 一読者の立場で自らが驚き、知りたいことを素直に書くこと。取材地を好きになり元気にし、よくしたい思いで書いていること。また記者仕事は家族旅行もやれないし、3人の子供との約束もはたせずあきらめられている、との一面も。約1時間10分の話の流れは次の通りでした。

(1) 富山県は地方紙、全国紙、ブロック紙が入り乱れた新聞の激戦区だ。県内に約42万部入っていて北日本60%、読売20%、富山10%、日経4%、北陸中日2%である。砺波と魚津とでは内容がちがっている。砺波(全部で1万9千部)は北日本45%、富山27%、読売18%、北陸中日4%、朝日2%。魚津(全部で1万8千部)は北日本56%、読売28%、富山5%である。県西部は競争が激しく地方紙、全国紙、ブロック紙が入り込んでいる。東部は北日本が優位で各紙の入り込みは少ない。地区によって競争内容が違っている。

(1) 平成16年「沈黙の森」(約6カ月の連載)取材チームに加わった体験。

—— 熊の出没で県内で大問題になり、山や森の内容にまで立ち入ったキャンペーンの一員として働いた全く関心のないテーマで、分からないという立場からの取り組みを —— 現場に出て関係者に聞き調べるうちに、興味が出てきた。記者が驚いたことを追求し、自分の疑問にこたえるつもりで取り組んだ。

(1) 平成17年「いのちの回廊」のキャンペーン特集(約6カ月間の連載)のチームに加わった。小泉内閣は医療や病院の内容を急後退させ、沢山のヒズミをつくった。何が問題でどこに原因があるのか、とにかく医療現場に踏込んで読者の疑問や心配に応えることに努めた。例えば突然医師が減ったのではなくて、医師の育て方や制度が変わり、医師は都会に集中し地方にいなくなる現実や、リスクの大きい産婦人科医から逃げる実態、大学の医局と地方総合病院のつながりが切れたこと等が浮び上がった。法や制度の改正がもろに現場に現れ受益者が苦しんでいることがみえた。

(1) 現場で聞いたことを読者に伝える。—— この体験の積み重ねが生きてくる。

それができるのは地方紙だからこそで、色々なジャンルの仕事に着く事ができることで力になる。

(1) 砺波にきて2年5カ月になるが全ての選挙に出会った。選挙は地域の動きをえぐり出し、人がみえてくる。活気にもつながり、若い人材を見つけ出せるきっかけにもなる。砺波には争わない風土がある。良い気風だが、一面 気迫や元気が育たないのではないか。南砺市や小矢部市の味は、少しちがっている。

(1) アテネオリンピックの取材に行ってきた。県出身の7人の選手を中心に取材した。

(1) 地域に密着した新聞をつくり、読んでもらう努力をしている。

紙面に残ることで地域の行事を盛り上げるきっかけにもなる。読者と喜怒哀楽を共感し、地域に生きる仕事をしたい。砺波は住み良さランキングも上位だし、人柄がオープンでつきあいやすい。